

平成26年度埼玉県・川越市国民保護実動訓練 実施結果

1 目的

緊急処理事態（大規模テロ等）に備え、県、市及び関係機関相互の連携と対応能力の向上を図るとともに、県民の皆様に国民保護制度の普及を図る。

2 概要

(1) 日時

平成26年11月25日（火） 13時15分～15時30分

(2) 会場

川越運動公園・総合体育館

(3) 参加機関

- ・ 埼玉県、川越市（共催）
- ・ 公益財団法人川越市施設管理公社
- ・ 陸上自衛隊（第32普通科連隊、第1特殊武器防護隊、第1飛行隊）
- ・ 埼玉県防災航空センター
- ・ 埼玉県警察（警察本部、川越警察署）
- ・ 川越地区消防局
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター
- ・ 日本赤十字社埼玉県支部
- ・ 小川赤十字病院
- ・ 三幸学園大宮ビューティーアート専門学校
- ・ 川越市全自治会
- ・ 県内市町村、消防職員等

※ 訓練当日は悪天候のため、ヘリ訓練（第1飛行隊、県防災航空隊、県警本部地域課航空隊、ドクターヘリ）は全て中止となりました。

(4) 参加者数

700人

(5) 訓練想定

総合体育館で化学剤（塩素）混じりの爆発と爆薬のみの爆発が発生した後、総合公園陸上競技場付近で爆発物らしき不審物が発見される。

(6) 訓練内容

ア 現場における初動体制の確立

- ・ 情報伝達、観客の避難と誘導、事情聴取、立入規制
- ・ 不審物（有毒化学物質）の検知と回収
- ・ 負傷者の救出救助、**トリアージ**、救護、心のケア
- ・ 除染、爆発物処理
- ・ 救急車による負傷者の搬送
- ・ 現地調整所の設置と運営

イ 緊急処理事態対策本部の設置

3 今回の訓練の特徴

- (1) 臨場感を出すため、特殊メイクを学んだ専門学校生徒による本格的なムラージュを実施しました。
- (2) 2020年東京オリンピック・パラリンピック会場の一つである川越市で開催しました。
- (3) 川越市自治会員等が避難者役として参加する「住民参加型」訓練を実施しました。
- (4) 強風と雨、寒さという悪天候の中で訓練を実施しました。
- (5) 過去最多の700人が参加しました。

<参考>

■国民保護とは

武力攻撃事態やテロ攻撃から国民の生命、身体及び財産を保護し、国民生活等に及ぼす影響を最小にするため、国、自衛隊、警察、消防、自治体等が連携し、国民の生命と財産を守ることです。

国民保護法は、平成16年6月14日に成立し、県の責務（国民の避難や救援の実施）が定められています。

県では、円滑に国民保護措置を実施できるよう、平成18年1月に国民保護に関する埼玉県計画を作成しています。

■緊急処理事態とは

武力攻撃（我が国に対する外部からの組織的・計画的な武力の行使をいう。）に準じる手段を用いて多数の人を殺傷する行為が発生した事態又はそのような行為が発生する明白な危険が切迫していると認められるに至った事態で、国家として緊急に対処することが必要なものをいいます。

■埼玉県国民保護訓練で実施したムラージュとは

負傷者役の体に出血や傷跡などの特殊メイクを施します。臨場感を高めるとともに、救助や応急救護を行う者が視覚的に症状を把握し、より実践的な訓練を行うことが可能です。なお、今回の訓練では、特殊メイクを学んだ専門学校生徒がムラージュを行うとともに、避難者役としても訓練に参加しました。

■2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける川越市での競技等

競技 ゴルフ 会場 霞ヶ関カンツリー倶楽部

■トリアージとは

負傷者を重症度や緊急度などによって分類し、治療や搬送の優先順位を決定することです。

災害時において、限られた医療資源（医療スタッフ、医薬品等）を最大限に活用し、可能な限り多くの傷病者の治療を行うためには、負傷者の状態の緊急性や重症度に応じて治療の優先順位を決定し、患者搬送、病院選定、治療の実施を行うことが大切です。

4 訓練の状況（開式）



平成26年11月25日（火）午後1時15分から、川越運動公園・総合体育館において開式が行われました。

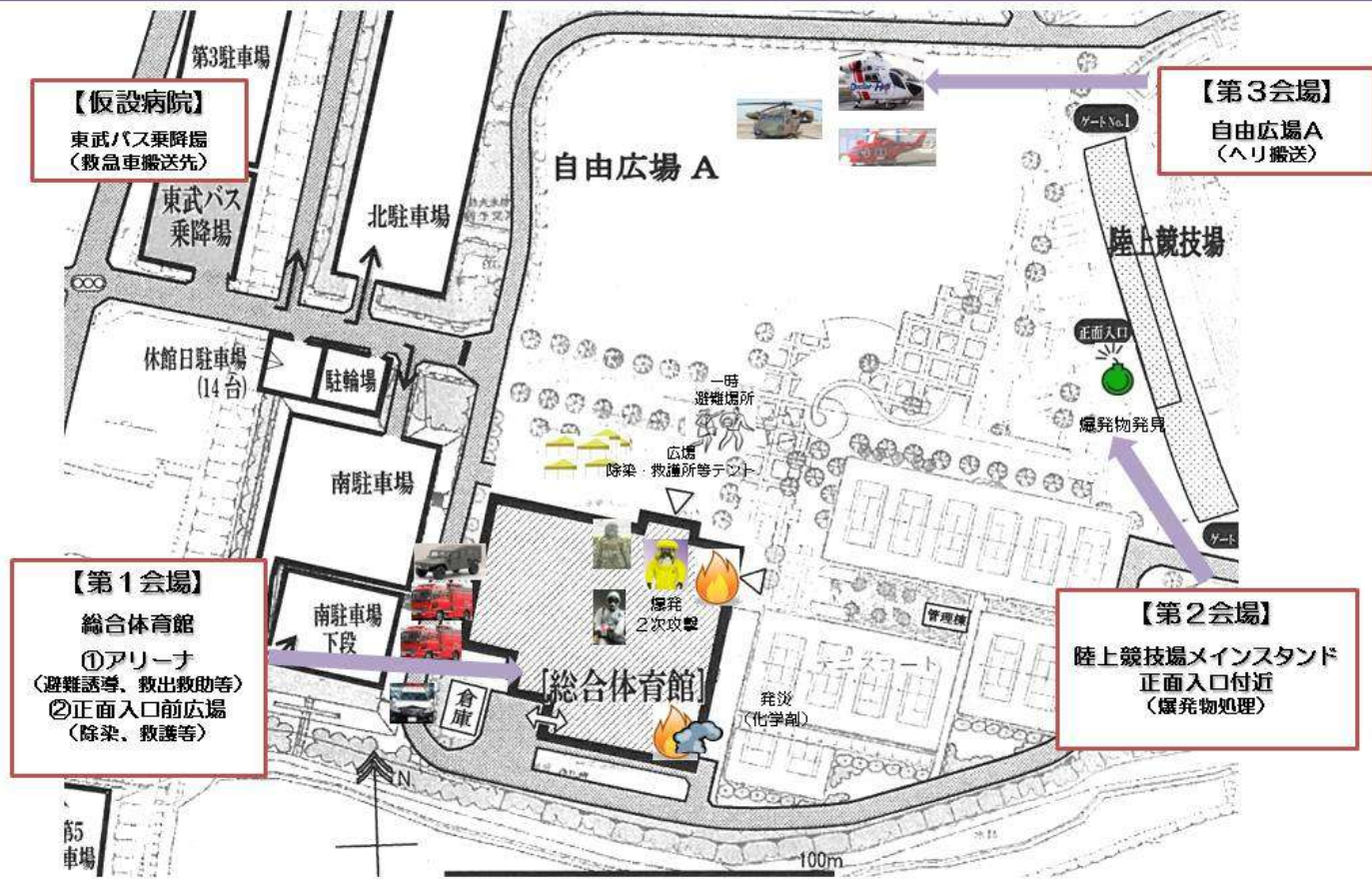


挨拶に立った上田清司埼玉県知事は「日頃の厳しい訓練の成果を発揮していただきたい。」「大規模なスポーツイベントではテロが想定される。こうした訓練を通じて私たちは様々な災害に強くならなければいけない。訓練がいざという時に私たちの身を守る、地域を守る、家族を守るものと確信している。」と述べました。



主催者による挨拶が行われた後、共催者の川合善明川越市長、来賓の県議会議員、市議会議員、国民保護関係者の紹介が行われました。

各訓練会場と主な訓練項目



訓練会場と主な訓練項目の図です。

第1会場の総合体育館及び体育館正面入口前広場、第2会場の陸上競技場メインスタンド正面入口付近では予定通り訓練が行われました。悪天候のため、第3会場で行われる予定のヘリ訓練は全て中止となりました。



臨場感を高め実践的な訓練とするため、初めて特殊メイクを学んだ大宮ビューティーアート専門学校の2年生が参加し、本格的なムラージュを施しました。

(訓練開始)



平成26年11月25日(火)午後1時30分、川越運動公園・総合体育館の観客席で小爆発が起きました。

訓練は、約3千人の観客を収容したイベントの開始直前に大規模テロが発生したとの想定で行いました。

まず、体育館アリーナの観客席で、化学剤(塩素)混じりの小爆発が発生しました。



小爆発で観客が倒れ、悲鳴や避難を促す叫び声が起こる中、異常を察知したイベント主催者は体育館を管理する公益財団法人川越市施設管理公社に連絡。川越市施設管理公社は119番通報を行うなど危機発生時における情報伝達を行いました。

同時に、川越市施設管理公社職員による誘導と館内・館外放送が行われ、観客の避難が始まりました。

なお、屋外では雨が降っているため、観客役の皆さんは雨具を着用しています。



観客の避難が始まった時、体育館アリーナ出入口付近で、第2の爆発が発生しました。第1の爆発よりも規模が大きく、多数の負傷者がアリーナ内に残りました。





観客の一部がツイッターやフェイスブックなどのSNSを使い情報を発信するため、スマートフォンで現場を撮影していました。そのため、川越市施設管理公社の職員が避難するよう説得を行いました。

テロ現場では、第2、第3の仕掛けやトラップの存在や有害物質が拡散する可能性もあるため、落ち着きスピード感をもった避難誘導が求められます。



川越市施設管理公社職員は、観客の安全を確保するため、館内・館外にも緊急放送を行いました。

また、川越市施設管理公社職員をはじめ、イベント主催者が、観客を屋外の一時避難場所へ向かって誘導しました。



川越運動公園を巡回していた川越警察署の警察官が、館外放送で異常を察知し、体育館に駆けつけました。

警察官は川越市施設管理公社の職員やイベント主催者とともに観客の避難誘導を行うとともに、立入規制などを行いました。

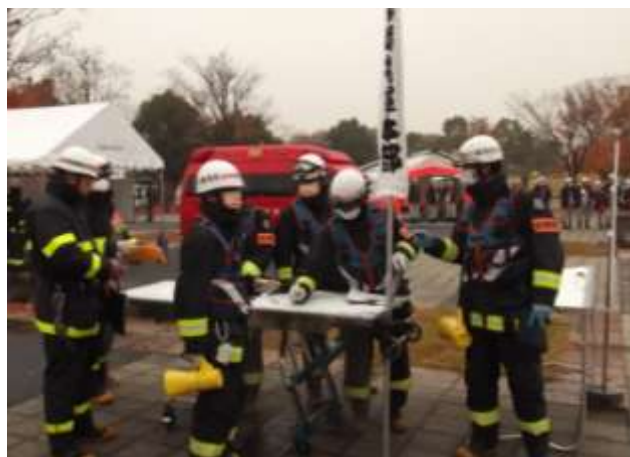


川越警察署から応援の警察官が到着し、川越市施設管理公社職員やイベント主催者、観客への事情聴取を行いました。事情聴取では事故発生時の状況や犯人、不審物等についての情報を収集しました。

また、川越地区消防局の先着隊と情報を共有しました。



川越地区消防局の先着隊が到着しました。隊員は川越警察署の警察官や川越市施設管理公社の職員から現場の情報を収集した後、周囲に有害物質の影響が及んでいないかどうか調査し、ゾーニング（活動できる安全な場所と汚染された場所を設定）を行いました。



安全が確認された場所には川越地区消防局の現地指揮本部が設置されました。



有害物質で汚染された被災者や、汚染地域で活動した隊員を除染するため、川越地区消防局が除染所を3か所設置しました。



負傷者の救護を行うため、川越地区消防局が救護所を設置しました。

救護所では、この後到着する医療機関と連携した応急処置などが行われました。



観客が一時避難した場所では、川越地区消防局の救急隊が被災者一人一人の状況を把握しました。この後、被災者は除染やトリアージ、救護を必要に応じて受けることになります。



危機情報を入手した川越市が、現場に防災危機管理課の職員を派遣し、現地調整所を設置しました。

現地調整所とは、大規模テロなどが発生した現場において、警察や消防、自衛隊、医療機関などの機関が、現場での情報を共有し、活動における調整を行うため、市や県が設置するものです。

この後、情報を入手した埼玉県危機管理防災部の職員も現地調整所に加わりました。



また、別会場の埼玉県危機管理防災センターや川越市防災危機管理課内では、県市職員による情報収集や緊急対処事態対策本部設置訓練が行われました（左写真は埼玉県危機管理防災センター）。



現地調整所には、埼玉医科大学総合医療センター医師が連絡員として入りました。

現地調整所では情報を収集し、消防による有害物質の特定や警察による体育館内の不審物の検索が終わり、医療活動を行う地域の安全を確認した後、医療スタッフが救護活動を開始します。



陸上自衛隊東部方面隊第1師団に所属する第32普通科連隊が到着しました。

第32普通科連隊は、主に埼玉県の防衛警備を担任しています。

第32普通科連隊は現地調整所で情報を収集して救護所を設置し、負傷者の救助活動の準備に着手しました。



同時に、陸上自衛隊東部方面隊第1師団に属する第1特殊武器防護隊も到着し、大型人員用除染所を設置しました。第1特殊武器防護隊は放射性物質や生物・化学などの特殊な武器での攻撃に対する防護を担当する対特殊武器専門部隊です。



川越地区消防局の進入・検知隊が、体育館内の有毒物質の有無、発生源、有害物質の種類を特定する検知や負傷者救助活動を行うため、体育館に進入しました。

着用している陽圧式化学防護服は、呼吸用の空気ボンベを使用し機密性が保たれているため、高いレベルで有害物質から隊員の身を守ることができます。



県警本部機動隊NBC部隊が到着し、不審物の回収と体育館内の検索のため、発災現場へ向かうところです。

機動隊は県警本部警備部に属し、警察業務の中でも専門要素の高い機能別の部隊が複数編成されています。今回の訓練では、NBC部隊・爆発物処理部隊の機動隊員を中心に参加しました。



一時避難所付近で、観客から川越警察署員に対し、公園の陸上競技場正面入口付近に不審物があるとの通報がありました。

通報を受けた川越警察署員は、現地調整所の現地指揮官に素早く情報を伝達し、現地指揮官は、機動隊の爆発物処理隊長に情報を伝えました。

現地調整所ではそれぞれの機関が情報を共有し、今後の対応について協議・調整が行われました。



機動隊が爆発物処理を行うため、川越警察署員と施設を管理する川越市施設管理公社職員により、陸上競技場付近の観客に競技場から離れるように指示が出されました。



人が遠ざかり安全確認がなされたことを現地調整所で把握した後、機動隊爆発物処理部隊による爆発物処理が始まります。





体育館に進入した川越地区消防局の進入・検知隊が、救助が必要な負傷者13名及び災害の発生原因となった有害物質を発見しました。

検知の結果、有害物質は化学剤の「塩素」の可能性が高いことが判明しました。



進入していた県警本部機動隊NBC部隊が、川越地区消防局の進入検知隊が発見、検知した有害物質を証拠品として採取し、回収しようとしています。さらに体育館内に他に不審物がないか検索活動も行います。



機動隊NBC部隊が体育館内の検索を終え、現地調整所では、体育館の安全を確認できたため、消防・警察が一斉に進入し、救出救助を行いました。

体育館内のアリーナでは、消防と警察が連携した救出救助が行われました。



救出救助が行われる一方、県警本部機動隊NBC部隊が体育館内の検索を終え、消防による有害物質の特定も終わっていることから、現地調整所において医療機関が現地での活動を行うことができると判断しました。

埼玉医科大学総合医療センターDMATと小川赤十字病院・日本赤十字社埼玉県支部の救護班、こころのケア要員が敷地内に進出し、救急指揮所に集結しました。



屋外へ救助された負傷者は、体育館の正面入口前の傷病者集積場所に搬送されました。

そこでは、川越地区消防局の隊員が、汚染された洋服を切断し、体をふきとる「乾的除染」が行われました。



続いて、負傷者を担架に乗せた状態でぬるま湯を体に浴びせ、有害物質を洗い流す除染を行いました。今回の訓練では、負傷者役の3人が水着を着用し、実際の除染に近い方法で本格的に除染しました。



川越地区消防局では、有害物質を取り除くための除染所を3か所設置しました。2か所は負傷者のために使用し、1か所は防護服を着用し、汚染された体育館の中で活動した自衛隊や警察、消防隊員のための除染所として使用しました。



自衛隊除染所

陸上自衛隊

陸上自衛隊第1特殊武器防護隊が、一時避難場所に避難していた、歩行可能な観客の除染を行いました。



第1特殊武器防護隊が持つ除染所テントは天井が高く中がとても広いため、汚染された人が立った状態で有害物質を洗い流すことができます。

自衛隊員が避難した観客に除染の説明を行い、誘導しました。



現地調整所には、埼玉県防災航空センターの無線統制員が入りました。

災害時は、広域搬送や上空偵察等を行う消防や警察、自衛隊等のヘリ、報道のヘリが上空に集中します。そうした状況下で安全に飛行し、限られた離着陸場を使用するため、現地の航空管制が必要となります。

今回の訓練では、悪天候のためヘリによる上空偵察や負傷者搬送などは実施できませんでした。



川越運動公園内の陸上競技場付近では、県警本部機動隊爆発物処理部隊が、専用車両と資機材を使い、不審物件の処理を行いました。

爆発物処理では、まず周囲の安全を確保した上で、不審物件の外形をよく観察します。そして専用の装備資材を活用し、不審物件が爆弾である可能性について判断し、作業が進められました。



県警本部機動隊の爆発物処理部隊は、防爆性能を持つ重機を使い、不審物件を処理します。



警察本部機動隊の爆発物処理部隊により、不審物件を搬送専用車両に収納しました。

不審物件は緊急走行で解体処理を行う場所へと搬送されました。

ほぼ同時に「爆発物処理が完了し搬送が始まった」との連絡が現地調整所に届き、関係機関で情報が共有されました。





除染所を通過した後、トリアージポストにおいて、川越地区消防局の救急救命士が、除染を終えた被災者に対してトリアージを行いました。



トリアージでは、どの負傷者から治療を行うか優先順位を決めていきます。負傷の度合いに応じて、緑（軽症）、黄（早期の治療が必要）、赤（緊急治療が必要）、黒（死亡）のタグを負傷者に付けました。



陸上自衛隊第32普通科連隊の隊員が、川越地区消防局や県警本部機動隊と連携し、負傷者の担架搬送を担いました。



川越地区消防局は救護所を2か所設置しました。トリアージタグが緊急治療の必要な赤色の重症者を主に対象とする救護所では、小川赤十字病院の救護班が消防と連携して応急救護活動を行いました。



トリアージタグが、速やかに治療が必要な黄色の中等症者を主に対象とする救護所では、埼玉医科大学総合医療センターDMATが消防と連携して応急救護活動を行いました。



川越地区消防局と2つの医療機関が連携し、応急処置を行いました。



救護所脇に設置された救急指揮所では、川越地区消防局の隊員が2か所の救護所の状況を把握している埼玉医科大学総合医療センターの医師と連携し、指揮に当たりました。



日本赤十字社埼玉県支部の救護所では、小川赤十字病院及び日本赤十字社埼玉県支部に所属するところのケア要員が、被災者のうち極度の不安や怒りを示す者に対してところのケアを行いました。



身体的、思考的、感情的、行動的に、何らかのストレス反応が現れた被災者に対し、ところを落ち着かせるとともに、自分のところへの対処のしかた、今後のケアの進め方を伝えるなど、被災者の立場に立ったケアを行いました。



陸上自衛隊第32普通科連隊の救護所では、トリアージタグが緑色、けがなどの症状が軽い負傷者の手当てを行いました。

救護所では、准看護師や救急救命士の資格を持つ隊員が、症状が軽い負傷者の観察や処置、避難の時に体調が悪くなった者や、転倒などで怪我をした負傷者に対して、簡単な応急処置や治療を実施しました。



医療機関や陸上自衛隊第32普通科連隊と連携し、川越地区消防局の救急車により、負傷者を病院へ搬送しました。

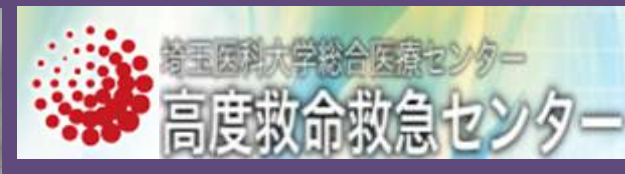


川越地区消防局や医療機関と連携し、陸上自衛隊第32普通科連隊の救急車両により、負傷者を病院へ搬送しました。





川越地区消防局が、塩素で汚染された可能性がある地域の環境を測定し（上段オレンジ色の防護服）、陸上自衛隊第32普通科連隊（下段迷彩色の防護服）が除染器を使い、汚染地域の汚染物質を洗い流す除染を行いました。



別会場の埼玉医科大学総合医療センターでは、高度救命救急センターにトリ
アージポストを設置し、川越地区消防局と連携した負傷者受入訓練を行いました。

閉式



閉式では、川合善明川越市長により
講評が行われました。

川合市長は「万が一、テロ攻撃などが
起きた場合は、市民の皆様を守るため、
速やかな初動対応を行わなければ
ならない。本日、様々な本格的な訓練
ができたことは大変有意義だった。」

「それぞれの訓練が良く連携がとれ、
関係機関の皆様、自治会の皆様が真剣
に取り組み、大変内容の濃い訓練と
なった。」「関係機関同士の連携も改
めて確認することができ、大きな成果
があった。それぞれの立場で平常時よ
り緊急事態を予測し、危機になる可能
性のある事象を早期に発見、情報収集、
対策の立案、報道対応など意識した日
頃の準備に備えてほしい。」と述べ、
全ての日程が終了しました。